

1. 日常生活

①住居…竪穴住居が中心。一部に平地(式)住居。[P. 30 ; 図表P. 47]

5世紀頃には住居内部に8 カマド もつくられた。←それまでの9 ろ 炉 にかわり普及。

②土器 [図表P. 45]

Q 5. 弥生土器の製法が受け継がれてつくられた赤褐色の土器を何というか? A 5. はじき 土師器

Q 6. 朝鮮半島から伝えられた製陶技術により、ろくろを使用し、高温で焼き上げた灰色・硬質の土器を何というか?

A 6. すえき 須恵器

2. 祭祀・習俗 [図表P. 48]

①農耕儀礼

* 10 祈年祭 (としごいのまつり)…年のはじめ(春)に五穀豊穡を祈る祭。

* 11 新嘗祭 (にいなめのまつり)…秋に収穫を感謝する祭。

②習俗

* 12 みそぎ 禊 …身についた穢れけがを水ですすぎ落とす

* 13 はらえ 祓 …儀式によって穢れ・災いを除く

* 14 ふとまに 太占(の法) …鹿の骨を焼いて吉凶を占う

* 15 くかたち 盟神探湯 …熱湯に手を入れ、ただれるかどうかで真偽を判定する

③祭祀遺跡 [P. 31①も参照]

* 福岡県・沖ノ島…島全体が16 むなかたたいしや 宗像大社 の三社の一つ・沖津宮の御神体とされ、古墳時代の

祭祀遺跡が存在し、多くの異物が発掘された。このことから、『海の17 しょうそういん 正倉院』とよばれ

ている。2017年に『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』として世界遺産登録。

* 奈良県・三輪山…山全体が18 おおみわじんじや 大神神社 の御神体とされている。

◇ 盟神探湯については図表 P. 48①◎に写真があります。この写真はズルいことに、手の代わりに別の物を入れて火傷しないようにしています(当たり前ですけど)。古代では二人の人物の主張が食い違うとき、二人に熱湯に同時に手を入れさせ、数日後の火傷の状態で真偽を判定したのだそうです。嘘をついている人間は火傷をし、真実を述べている人間は火傷をしないそうです。『日本書紀』にはこれに勝利した人物のエピソードが載っていますが、一方ではある地方豪族がこれを乱用して多くの人間を火傷を原因とする死に至らしめたという話も載せられています。やはり潔白を証明するのは大変だったようです。

なお、教科書には載っていませんし、入試にも出ませんが、盟神探湯は室町時代に6代将軍が突如復活させて、(おそらく)人々を恐怖に陥れたようです。室町時代6代将軍がどのような人物かということ授業でみた後にこの話を思い出してもらえれば、6代将軍のキャラクターがより強く現代の私たちに焼きつけられることでしょう。

◇ 教科書 P. 31①をさらに解説します。神社に行くとお賽銭を投げ入れてお祈りをします。そこが拝殿です。しかしそこにご神体はありません。ご神体は拝殿の向こう、本殿にまつられています。で、この通常ある本殿がないのが大神神社というわけです。本殿はないのですがその先に三輪山があつて、拝殿はこの三輪山に祈るための建物ということになります。